

令和元年度学校評価外部報告書

兵庫県立加古川南高校 学校評価委員会

総合評価 B+
(データ平均値 76.1)

テーマ	領域	重点目標	評価項目No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	次年度に向けた改善の方策 (2020年2月記入)	課題と来年度に向けての提言
夢や志を育む学校をめざして	産社・総学の充実		1	自己理解・自己管理ができるとともに、コミュニケーション能力が向上した。	総推・各年次	B+ (77.2)	B+ (76.5)	3.1	2.9	3.1	<p>【総合学科推進部】1年次産社の各種取り組みが、働くことの意義や役割など将来の進路意識の向上に役立っていることがうかがえるが、課題を自らの力で解決するというところまでは至っていない。人任せにならない自主性を育てられるように、2年次以降のプログラムの改善に取り組む。</p> <p>【1年次】1学期のスケジュールが過密である。特に科目選択の時期をもう少し遅らせることができれば余裕が生まれる。</p> <p>【2年次】少人数ゼミであっても全体の流れから遅れる生徒への対応は難しい。ゼミの枠を越えた連携も必要と考える。</p> <p>【3年次】課題研究を通しての気づきや身につけた力を、もっと進路実現や学校生活で発揮させたい</p>	<p>・1年毎に達成すべきことを計画すれば、テーマ達成に近づけると思う。</p> <p>・選択科目の決め方を考え直すべき。(3年次については、進路に必要な科目を優先的にしてあげる。)</p> <p>・本校への入学志願者に対する学校案内や説明会で本校の学びについて強調したことによって、自分の進路を明確にしている生徒が多く入学する一方、教師側も指導内容や情報提供を絞りやすくなり、キャリア教育の充実をあと押しする結果になっていると思われる。しかし、自分の進路が明確になっている生徒は満足度は高いが、明確になっていない生徒について満足度が低い可能性を意識しておく必要性はあると感じる。</p>	
			2	課題に対して情報を適切に処理し、課題解決していく力が向上した。	総推・各年次		B+ (73.9)	2.8	3.0	3.0			
			3	働くことの意義や役割を理解し、進路意識や職業観が向上した。	総推・各年次		A- (81.3)	3.1	3.3	3.3			
	進路の達成			4	希望する進路に向かって地道に学習する生徒を増やした。	進路・各年次	B+ (75.2)	B+ (71.9)	2.6	3.1	2.9	<p>【進路指導部】生徒の進路希望について情報交換会を7月、10月、12月、1月に行い、3年次と緊密な情報を共有する。／個々の生徒の情報をより緊密に共有するよう取り組む。</p> <p>【進路指導部】より適切な時期に生徒・保護者に対してガイダンス・説明会を実施する。／年次への進路情報提供を密に行う。</p> <p>【総合学科推進部】キャリア教育が進路に少なからず影響を与えてはいると思うが、個々の取り組みについて、単独の取り組みにならないように、来年度進路指導部との合併を機に実効あるものとしていきたい。</p> <p>【1年次】授業を中心として、予習と復習の習慣づけを徹底させていきたい。決められた課題をこなすだけでなく、個人個人が学習に主体的に取り組むように導くことが、進路実現につながる。</p> <p>【2年次】進路実現にむけた方策(方針)をまずは年次団が提起することが大事である。そのうえで進路指導部等、年次団以外のお力も借りて学校全体で生徒を育てていくことが大事だと考える。</p> <p>【3年次】生徒はもちろん、教員も受験に対する研究や研修の機会をできるだけ早い時期に実施する必要があると感じた</p>	<p>・No.6については、生徒評価ポイントが低いため、方法に変更を加えるなど工夫してはどうだろうか。</p> <p>・キャリア教育について、就職後・進学後の追跡データがあれば指導にも役立つ。</p>
				5	進路実現に向けて個に応じたきめ細やかな指導を実施した。	進路・各年次		B+ (75.2)	3.1	3.1	2.8		
				6	キャリア教育と進路指導が連携し、効果が上がった。	総推・進路・3年次		B- (69.5)	2.8	2.7	2.8		
	ガイダンス機能の充実			7	納得のいく科目選択のために丁寧なガイダンスが実施された。	総推・1,2年次	B+ (76.2)	B+ (79.9)	3.3	3.2	3.1	<p>【総合学科推進部】1年次産社の時間を活用し、キャリア教育の一環としての科目選択(部分)をどう実現していくか、教務部・年次と連携を取りながら進めていく。</p> <p>【1年次】進路指導に関しての教師側の研修の実施と、検討会などを通じた情報共有を図る。</p> <p>【2年次】情報を共有すること、年次団としての方向性を示すこと、まずはそこが大事である。誰でもがガイダンスできる、誰でもが生徒と面談できるくらいまで、情報共有をしたほうがよい。</p> <p>【3年次】担任や進路指導部が生徒面談を通して得た情報を、その都度情報共有し、もっと意見交換を密にする</p>	
				8	進路実現に向けて効果的な情報提供がなされた。	進路・各年次		B+ (78.2)	3.1	3.2	3.1		
				9	生徒の情報が教員間で共有され生徒の意欲向上につながった。	各年次・各教科		B+ (70.6)	2.9	2.6	2.9		

テーマ	領域	重点目標	評価項目No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	次年度に向けた改善の方策 (2020年2月記入)	課題と来年度に向けての提言
夢や志を育む学校をめざして	領域2 学力の向上	授業改善	10	わかりやすい授業、意欲を高める授業を実施した。	全職員	B+ (72.0)	B+ (70.1)	B+ (71.0)	3.1	2.7	2.7	【教務部】11月に2週間、全教員を対象に公開授業を行い(例年実施)、教員間の意見交流で授業改善を図る。生徒に対しても授業の趣旨を説明して授業評価を求め、教員の授業方法の改善と生徒の内容理解を深める。	・授業改善の強化に効果的な教育方法に対して、教員間の情報共有を密にする。 ・学習の定着に向けてマニュアルの強化をするべき。 ・生徒は科目やカリキュラムに対して高く評価している反面、自分が勉強をしているとは評価していない。早めの目標設定や、早い時期で1・3年の交流を行ってはどうか。 ・生徒の希望進路が明確であれば、現在の「オーダーメイドの選択科目」が効力を発揮すると思うが、そうでない生徒への指導については、同じやり方で大丈夫なのか確認する必要があると思われる。
			11	主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習過程の改善に取り組んだ。	全職員			B- (69.5)	3.0	2.6	2.7		
			12	授業公開や生徒による授業評価を取り入れるなど授業改善に取り組んだ。	教務・各教科			B- (69.8)	3.1	2.6	2.7		
		カリキュラムの充実	13	進路達成に応じた、多様な科目を設定した。	教務・各教科		A- (85.6)	3.3	3.5	3.4	【教務部】学級減に伴う教員数の減と母集団の生徒数の減でこれまでの科目が開講できない場合も出てくるが、生徒の進路選択や関心の高い科目については設定していく。令和2年度で4年度から実施される新教育課程について確定する。	・生徒の評価が低いことから、やられている感からの脱却を目指し、他校の例を参考にしたり人気のある予備校師を招いたりしてはどうか。 ・家庭での学習習慣の定着は大事な課題。学校においても自主学習の環境が整っているのが望ましい。	
			14	学力向上を目指したカリキュラムを設定している。	教務・各教科		B+ (78.7)	2.9	3.3	3.3			
			15	新学習指導要領に対応した教育課程編成の準備をした。	教務・各教科		B+ (72.5)	2.9	/	/			
		学習習慣の定着	16	家庭学習習慣を定着させた。	各年次・教務		B+ (72.7)	3.3	2.6	2.8	【総務部】朝読書を継続して行う。読書習慣を身に付けさせるために、話題の本やお勧め本などを図書館だよりに掲載するなどして読書への興味関心を高める。 【教務部】年次、教科と協力して家庭での学習習慣を定着させていく。 【1年次】小テストの実施に加えて、学習時間調査を行う。適切な課題を課す。 【2年次】「提出すること」を目的とした学習に陥っている生徒が多い。提出しなければ減点という評価方法ではなく、出せば加点する、という評価方法に変えていく時期だろうか。2年次以降はそのようにできると思う。／朝読では「中高生新聞」の一部分(一週間のニュースをまとめたページ)を印刷して読ませた。新聞を読むきっかけとしてはよかったのでは、と考える。 【3年次】決められた学習だけでなく、早い時期から受験勉強など自学自習習慣の定着や学習に取り組む意識や雰囲気づくりの工夫を行なっていく		
			17	予習・復習をさせる手立てを組織的・計画的に実施した。	各年次・教務		B- (66.8)	B- (62.4)	2.9	2.0		2.6	
			18	読解力の向上を目指して、朝読など読書活動を実施した。	総務・各年次		B- (65.4)	3.1	2.3	2.5			

テーマ	領域	重点目標	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	次年度に向けた改善の方策 (2020年2月記入)	課題と来年度に向けての提言
夢や志を育む学校をめざして	領域3 人間力の育成	生活指導の充実	19	交通マナーの向上に努め、自転車事故の低減を図った。	生徒指導・各年次	A- (80.5)	B+ (79.3)	B+ (78.1)	3.3	3.1	3.0	<p>【生徒指導部】交通事故を未然に防ぐために全校集会等での啓発活動（ミラーリング等）を行う。いじめに関しては小さな事案も見逃さずに全職員で取り組む。</p> <p>【保健部】生徒指導部と連携し、いじめ問題に協力していきたい。またカウンセリングを通して、年次と連携し、小さな悩みなどすぐに対応できるようにしたい。</p> <p>【2年次】生徒指導は生徒と教員の信頼関係の上に成り立つものである。だから一本筋を通して、指導し続けるしかない。</p> <p>【3年次】服装頭髪検査は、専門部の先生なども振り分け始業式後などで、学校全体でおこない、指導のプレをなくせればと思う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも積極的に挑戦できる力を養い、自発的な行動ができる生徒の育成をおこなうようにする。 ・挨拶のできる生徒になるよう、変わってもらいたい。 ・「ボランティアの加古南」は今年も健在。学校での自分とボランティアでの自分との違いに気づくことは貴重な経験。様々なステージでの体験は自己肯定感を育めると思う。 ・学校だよりなどを中学校に配布するなど経営努力をされていることは素晴らしい。「知ってもらわないと始まらない」と思う。 ・地元の評価を大切にしてほしい。細かいことや小さなことでも協力して共同してやってほしい。 ・勉強に追われ、窮屈な高校生活を送るよりも、夢を持ち時間的にも余裕がある方が部活や友達との交流が活発になり、充実した高校生活を送れることは確かである。この点を理解している点で、高い評価につながっていると思われる。 ・情報モラルの重要性が高まっている。日進月歩の分野であるため今後も力を入れていくべき。
			20	ネット依存・トラブル防止のため、情報モラルの高揚に努めた。	生徒指導・各年次			A- (80.7)	3.4	3.3	3.0		
			21	端正な服装・頭髪ができるなど規律正しい学校生活を送らせた。	生徒指導・各年次			A- (82.9)	3.1	3.5	3.4		
			22	定期的にアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見・解消に努めた。	生徒指導・保健・各年次			B+ (79.4)	3.5	3.0	3.0		
			23	生徒の悩みを聞く体制がとられており、共通理解に基づいた対応ができた。	生徒指導・保健・各年次			B+ (75.5)	3.3	2.9	2.9		
	課外活動の充実	24	部活動を活性化し、自主性や豊かな人間性を育んだ。	全職員	B+ (78.7)	B+ (78.7)	B+ (78.7)	3.3	3.0	3.1	<p>【総務】学校行事の運営の一部を生徒に任せるなど、生徒に活躍の機会を与える工夫が必要である。</p> <p>【総合学科推進部】各種行事で、実行委員等を募集し、積極的に動く姿勢はできているが、次の段階として、言われて動くのではなく、自分たちで考えて動けることを身に付けさせる。</p> <p>【生徒指導部】生徒の自発的な行動が生まれるように働きかける。（生徒主体の行事運営等）</p>		
		25	生徒会活動や学校行事を通して主体性が育まれた。	総務・総推・生徒指導			B+ (78.7)	3.4	2.9	3.2			
		26	ボランティア活動やインターンシップなど、地域と結びついた活動が活性化した。	生徒指導・総推			A- (84.7)	3.6	3.3	3.3			
	地域との連携充実	27	ホームページ・各種学校通信など学校からの情報発信は効果的に行われた。	企画・広報	A- (83.5)	A- (82.2)	A- (82.2)	3.6	3.0	3.2	<p>【総合学科推進部】インターンシップ等、活動は活発ではあるが、生徒のニーズも取り入れて一部手直しを加えていく。</p> <p>【生徒指導部】ボランティアの加古南と呼ばれ続けるように活動を活性化させる。</p> <p>【企画・広報】学校新聞「楠南記」は中学校にも好評だったのでもう少し部数を増やして配布したい。／ホームページはいろいろな意見を聞いて改善し、毎日更新を心掛けた。実技科目以外の授業なども情報を集めて発信できるようにしたい。</p>		

テーマ	領域	評価項目No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	次年度に向けた改善の方策 (2020年2月記入)	課題と来年度に向けての提言
夢や志を育む学校をめざして	領域4 教師力の向上	28	生徒に寄り添い、厳しさと温かさをもってカウンセリング力、コーチング力の向上に努めた。	全職員	B+ (76.9)	B+ (78.1)	3.3	3.0	3.1	<p>【全職員】 自身の指導力向上のため、研修を行う必要性を感じている教員が多い。カウンセリング力に限らず、教科指導やICTなどの研修計画をさらに進めていく。／教員の言葉が思わぬ形で生徒や保護者に伝わっていることがあるので、生徒・保護者対応における言葉遣い、話し方について見つけ直したい。／指導の仕方についてバラつきがあるという指摘があるため、指導の在り方について職員間の共通認識を深めるよう、これまで以上に情報共有、意見交換を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の強化とルールの整理・共有をすべき。 ・ICT活用に向けて、教師の知識・スキルやICT機器の整備がどれくらい進んでいるのかを知りたい。 ・高校生とはいっても、まだ精神面での成長は未完成なので、その点における心配りは必要だと思う。 ・生徒に対して公平で適正な評価・評定を行うことは当然だが、昔懐かしい「教育への責任感や使命感」の滲み出る教師も欲しい気がする。 ・生徒評価と教員評価で若干の乖離が見られるため、生徒とのコミュニケーションを更に深めるようにしてもらいたい。 	
		29	ニーズをつかみ、変化する時代に対応するために総合的な教師力の向上に努めた。	全職員			3.1	2.8	3.0			
		30	報告・連絡・相談を密にとり、「チーム学校」としての教育力の向上に努めた。	全職員			3.2	3.0	3.1			